

# 福祉社会専攻

## 福祉やまちづくりの 専門知識と実践能力を修得

「福祉」や「まちづくり」に関する高度専門職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者、コミュニティプランナーなど）、研究者の養成を目的としています。福祉、まちづくりの幅広い課題に応えるために、ソーシャルワーク系、システム・マネジメント系、コミュニティ・デザイン系の3領域の科目群を設置。また、社会人が学びやすいようにさまざまな制度を整えています。

授業は、昼間は主に多摩キャンパスで木曜、金曜に開講（一部土曜を含む）。夜間は市ヶ谷キャンパスで月曜、火曜に開講。単位互換制度を利用した福祉系11大学の授業の履修も可能です。

生活する人の視点に立ち、その一人ひとりのウェルビーイングの向上を図るために、福祉コミュニティの創造に寄与する研究を目指しています。

<p><b>アドミッション・ポリシー</b> (学生受け入れ方針)</p> <p>4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりの領域に関わる知識を修得していること、および専門領域に関わる英語力を有していることを受け入れの基準としている。具体的には、専門科目、英語に関する筆記試験（ただし、社会人受験生は免除）および口述試験（面接）を実施している。</p>	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b> (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>福祉社会の形成に関わる課題と理論を修得した研究者、高度専門職業人の養成を教育課程の方針とする。これに基づくカリキュラムは、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を社会福祉と地域づくりの領域から学ぶ「専門展開科目」、修士論文に収容するよう個別指導を行う「演習科目」で構成している。</p>	<p><b>ディプロマ・ポリシー</b> (学位授与の方針)</p> <p>本専攻では、現代社会においてウェルビーイングを実現することができる人材の養成という人間社会研究科の教育目標を踏まえ、福祉社会の形成に関わる最先端の課題と理論および基礎的な研究力を修得することを、学位授与の方針として設定している。</p>
---	---	--

### 専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p><b>石井 享子 教授</b></p> <p>専攻：保健福祉学、公衆衛生学 研究テーマ：well-beingと人材育成、ケアマネジメント特論 担当科目：保険医療福祉システム特論、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>伊藤 正子 教授</b></p> <p>専攻：社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々の社会福祉援助 研究テーマ：外国人労働者の生活問題、多文化ソーシャルワーク 担当科目：ソーシャルワーク理論研究特論、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>岩崎 晋也 教授</b></p> <p>専攻：社会福祉原理、社会福祉思想 研究テーマ：社会福祉/原理、思想 担当科目：社会福祉学特論Ⅰ、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>
<p><b>岩田 美香 教授</b></p> <p>専攻：児童・家族福祉論、教育福祉論 研究テーマ：子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク 担当科目：※2017年度はサバティカル(研究専念年度)です</p>	<p><b>佐藤 繭美 教授</b></p> <p>専攻：ソーシャルワーク論(特に終末期ケアを中心として)、当事者および家族への支援 研究テーマ：当事者・家族への支援、死別ケア 担当科目：※2017年度はサバティカル(研究専念年度)です</p>	<p><b>眞保 智子 教授</b></p> <p>専攻：若者支援論、人的資源管理論、障害者のキャリアデザイン 研究テーマ：若者就労支援、障害者雇用、企業における精神科ソーシャルワーク 担当科目：障害者福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>
<p><b>関司 直也 教授</b></p> <p>専攻：農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論 研究テーマ：農山村における地域マネジメント、外部人材と協働する地域づくり 担当科目：地域空間学特論Ⅱ、福祉社会研究法、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>高取 康之 教授</b></p> <p>専攻：異文化コミュニケーション、英語教育、経営学(マーケティング) 研究テーマ：多文化混在社会の今後 担当科目：原書講読研究(2017年度は非担当)</p>	<p><b>土肥 将敦 教授</b></p> <p>専攻：ソーシャルイノベーション、社会的企業家、CSR 研究テーマ：ソーシャルイノベーションの創出と普及、社会的企業家研究、CSR研究 担当科目：地域経営特論Ⅰ、論文研究演習Ⅰ/Ⅱ、実践研究演習Ⅰ/Ⅱ</p>
<p><b>中村 律子 教授</b></p> <p>専攻：高齢者福祉論、老いの比較文化論 研究テーマ：高齢者施設処遇史研究、高齢者福祉制度の比較研究 担当科目：高齢者福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>布川 日佐史 教授</b></p> <p>専攻：公的扶助論、雇用政策論 研究テーマ：就労支援と生活保障の日独比較、生活保護自立支援プログラムの検証 担当科目：社会思想史研究、論文研究演習Ⅰ/Ⅱ、実践研究演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p><b>水野 雅男 教授</b></p> <p>専攻：都市住宅政策論、市民活動運営論 研究テーマ：地域木造住宅保全システム研究、被災地復興地域づくり研究、創造都市研究、医療経済研究 担当科目：都市・住宅政策特論Ⅱ、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>
<p><b>宮城 孝 教授</b></p> <p>専攻：コミュニティソーシャルワーク、地域福祉計画などの地域福祉方法論 研究テーマ：コミュニティソーシャルワーク方法論、超高齢化地域における包括的な支援策 担当科目：地域福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習Ⅰ/Ⅱ、実践研究演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p><b>保井 美樹 教授</b></p> <p>専攻：都市・地域計画論、計画行政、自治システム研究 研究テーマ：欧米の都市環境システム論、官民連携による地域再生研究、コミュニティソーシャルワークやエアリアマネジメントに関する研究 担当科目：地方自治特論Ⅰ、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>湯浅 誠 教授</b></p> <p>専攻：社会的包摂、貧困問題、民主主義 研究テーマ：生活困窮者支援研究 担当科目：生活問題特論、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>
<p><b>佐野 竜平 准教授</b></p> <p>専攻：国際協力、国際地域開発、障害と開発、東南アジア 研究テーマ：東南アジア(アセアン)地域における国際協力・開発の理論と実践 担当科目：国際協力特論、論文研究演習Ⅰ、実践研究演習Ⅰ</p>	<p><b>服部 環 兼担教授(科目担当)</b></p> <p>専攻：教育心理測定学、心理データ解析 研究テーマ：項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用 担当科目：福祉社会特論Ⅱ、データ分析法</p>	

Graduate School of Social Well-being Studies Major in Social Services	<p>募集人員：修士課程15名 開講形態：昼間開講(一部夜間開講) キャンパス：多摩/市ヶ谷 長期履修制度：有 主な進路：独立行政法人、福祉関連機関、まちづくり財団、NPO法人、民間企業、進学(博士後期課程)など</p>
--	--

### 研究室紹介

関司 直也 教授

地域課題が「先発」する農山漁村の現場に身を置き、暮らしと経済の両輪から解決策を検討する

#### 農山漁村再生に向けた 地域マネジメントのあり方を考える

日本の人口推移は、2000年代に入ってピークを迎え、減少局面に突入しました。その中でも、都市よりも農山漁村の方が先んじて人口減少が進み、様々な地域課題が「先発」して発現しました。それゆえに、農山漁村ではその対応にも、地域住民が「先発」して向き合い、地域運営組織、地域サポート人材、起業・継業といった新たな発想を生み出し、試行錯誤の経験を重ねています。研究室としても、このような現場にしっかり関わり、課題の背景にあるメカニズムを読み解くとともに、条件不利なハードルを乗り越えようとする実践プロセスを捉え、その解決策を現場とともに考え、政策にも還元していく姿勢を大事にしています。

### STUDENT'S VOICE



修士課程 在学中  
森 翔人

福祉やまちづくりなどの社会的な課題に立ち向かう実践的な講義。多種多様な学友のバックグラウンドと研究テーマが刺激になる

#### 専攻の魅力

本専攻では現実の課題を捉えることを重視します。たとえば、一口に「社会的課題の解決」と言っても、世界にはローカルな課題から、グローバルな課題まで、従来通りの切り口では捉えきれないものが多くあります。そのような課題に対して、企業主体のビジネス的アプローチ、行政主導の都市計画や福祉政策、あるいは市民主体の地域活性化といった、複数の領域を跨ぎながら統合的な解決策を検討することは、これからの社会における真のwell-beingを達成する上で必要不可欠であると考えます。

#### 好きな授業・演習

地域経営特論がもっとも好きな講義で、「Business and Society」という学問をベースに、地域や社会のさまざまな主体と企業(ビジネス)の関係性について日々議論しています。本場アメリカのテキストを用い、理論と事例の考察を行き来しながら授業を進めています。学生のバックグラウンドや研究テーマが教育・福祉・経営などと多様なため、同じ理論を学んでもそれぞれ異なった発想や見解を持つことを、議論を通じて思い知らされ、大変刺激になっています。

研究テーマ	企業のグローバル・サプライチェーンにおける労働問題に対する自主的アプローチの有効性と課題 —社会的監査における「透明性」と「正統性」の視点から—
-------	--

### 設置科目 (2017年度) ※開講科目は年度により異なります。( )内は単位数

[ 修士課程 ]	福祉経営特論(2)
福祉社会研究法(2)	非常利組織特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
ソーシャルポリシー特論(2)	国際協力特論(2)
社会思想史研究(2)	都市・住宅政策特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
データ分析法(2)	地域空間学特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
原書講読研究(2)	地域文化特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
ソーシャルワーク特論Ⅰ/Ⅱ(各2)	地域経営特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
ソーシャルワーク理論研究特論(2)	地方自治特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
ソーシャルワーク実践研究特論(2)	地域環境特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地域福祉特論(2)	福祉社会特論Ⅰ~Ⅳ(各2)
児童福祉特論(2)	論文研究演習Ⅰ/Ⅱ(各4)
高齢者福祉特論(2)	実践研究演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
障害者福祉特論(2)	
精神保健福祉特論(2)	
海外社会福祉研究(2)	
生活問題特論(2)	
社会福祉学特論Ⅰ/Ⅱ(各2)	
保健医療福祉システム特論(2)	
リハビリテーション特論(2)	
ケアマネジメント特論(2)	

### 修了生の研究テーマ

- ・都市の人口減少・高齢化地区における生活環境とコミュニティに関する研究
  - 北九州市枝光一区を事例として—
- ・身体障害当事者による福祉教育の意義
  - 教育方法上の工夫に焦点を当てた実証的研究—
- ・農山村へ向かう若者の変容
- ・中国都市地域における高齢者施設の発展を阻害する要因に関する研究
  - 青島市の市内4区・21ヶ所の高齢者施設の責任者を対象とした調査から—
- ・軽・中度要介護高齢者の在宅ケア継続可能性に関する実証的研究